

様々な人との交流の中で<幼・小・中・保護者> 堺市立北八下幼稚園（大阪府堺市）

子どもの「4つのするどさ」(心・美のするどさ、考えるするどさ、表現のするどさ、人とかかわるするどさ)を磨き、そして、教師の「3つのするどさ」(子どもの心を受信するするどさ・子どもを理解するするどさ・子どもの感動を返すするどさ)を高め、互いの磨き合いを追究していきたいと考え、実践を重ねている。

事例 様々な人との交流の中で子どもと教師のするどさの磨き合いの事例

加呂登池ではいろいろな活動ができる。岸でのザリガニつり、バッタやトンボ捕り。池の中ではメダカやオタマジャクシなど目に見える生き物や、泥をすくって見つけられる生き物、見えない場所にいる生き物探し。そして、浅い所や深い所など水の中を歩く活動など、それぞれに自分の好きな活動を見つけて取り組めた。

(幼：5歳児、小：小学生、中：中学生、保：保護者やボランティアの方、T：教師)

活 動	子どものするどさと教師のするどさ
<p>池の中の生き物探しをする</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">このへんにいるはずや (幼)</div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">そこにいるよ (幼)</div> </div> <p>T「 ちゃん、どうしてここにいるってわかったの?」 幼「草のところに隠れてるねん」 T「よくしってるね。 ちゃんすごいね」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おばちゃん、オタマジャクシ捕まえたよ (幼)</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">よかったね。ここに入れる? (保)</div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">私も捕まえたよ (幼)</div> </div> <p>幼「見せて見せて」 幼「あっオタマジャクシやいっしょやね」 T「ほんとうやね」「 ちゃんも ちゃんもオタマジャクシ見つけたんやね。うれしいね」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">何やるね (中)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">いいなあ、私も見つけたい (小)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">なになに、私にも見せて (幼)</div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">おいでおいで。見てごらん(中)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">お姉ちゃんなんか捕まえた? (幼)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">釣れた釣れた。でもなかなかはずれないな? (小)</div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;">本当や。はずれない。お兄ちゃんががんばれ (幼)</div> </div>	<p style="text-align: center;">子どものするどさと教師のするどさ</p> <p>教師のするどさで確認したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の喜びや興味に共感する。 ・ 活動に躊躇している子どもには、その心を理解し楽しさを知らせ参加できるように誘いかける。 ・ 園児・小・中学生と一緒に見たり探したりできるよう、一緒に活動したり誘い掛けたりする。 ・ みんなで話し合う中で、個々の気持ちを出し合い、共感しあったり違いに気付いたりできるような場にする。 <p>園児は昨年の経験があるので活動へのイメージをもちやすく、前回放流したヨシノボリへの思い(どうしているかな? ちょっと大きくなったかな?)もあり積極的な活動につながっている。 [心・美のするどさにつながる姿]</p> <p>昨年の経験から草の所にザリガニやメダカが隠れていると予想して捕りに行っている。 [考えるするどさにつながる姿]</p> <p>T 教師は子どもの予想が的中したことを認め、子どもが満足感を味わえるように努めた。</p> <p>捕まえると人に見せたくなる。その時に一緒に見たり喜んでりしてくれる人がいることで、喜びが大きくなり次への意欲にもつながる。この時は教師もさることながら、保護者や友達が共感者になり、個々の満足感を高めることができた。</p> <p>T 教師も受信者としての自分を磨き、適切に受け止めてかえしていけるようになっていきたい。</p> <p>最初は自分が捕まえることに一生懸命だった子どもたちも、次第に周りの様子に目が向くようになり、「捕まえたもの」「見つけたもの」が媒介になり、自然にかかわりがもてるようになった。かかわる相手は、友達や保護者、ボランティアの方であったり、他校種の子どもや教師であったりするが、「捕まえた喜び」「見たい欲求」「捕まえない思い」など共感することが多くあることが、互いの距離を縮めていると考える。 [人とかかわるするどさや表現のするどさにつながる姿]</p> <p>T 教師は共感的な態度と一緒に活動し、周りの人と人をつないでいくようなかかわりをするのが大切であると考えた。</p>

あれっ。
このザリガニ
何か持ってる
(幼・小)

魚捕まえてる(小)



おー。(どよめく)(幼・小)

T 1「すごい」

小「魚捕まえてる」

幼「ザリガニが魚捕まえて、くんがザリガニ捕まえたんやね(周りの人に知らせる)

T 2「すごいこんなのはじめて見た。くんうまく捕まえたんやね。うれしいね」

釣り上げたザリガニが、偶然にも小さな魚を挟んでいた。初めは気付かなかった。しかし、気付いた時の驚き、信じられないような気持ちはすぐに喜びに変わった。挟まれた魚を「こんなふう挟むんや」「食べるのかな」とじっと見る姿から、本当に感心している様子うかがえた。

[考えるするどさにつながる姿]

T 教師も初めての経験で、一緒に驚き興奮してしまった。

捕まえた幼児は周りのみんなに認められてうれしいが、思ったより大騒ぎになって驚いていた。

T 教師のかかわりで場を盛り上げることができた。しかし、もう少し落ち着いて子どもの気持ちを受け入れ、じっくりとザリガニの様子を観察すればよかった。

子どもの心に寄り添い共感する支援の難しさを改めて感じた。

<成果と課題>

子どものするどさについて

園児は昨年の経験や6月のヨシノボリの放流の経験があるので、それぞれに予想を立て、自分なりの具体的な目的を持って活動に取り組んでいた。経験からの予想を元に活動しようとする姿から、「考えるするどさ」の育ちうかがえた。

小学生にとっては初めての経験であるが、感覚(触覚、臭覚、視覚、聴覚)を存分に働かせ、情報を集めながら、意欲的に活動していた。また、大勢の人たち(園児、小・中学生、大人)の中できるとともに安心感もち存分に活動できていた。その中で「やってみたい」「どうなっているのだろう」「きっとここにいるだろう」「なぜだろう」と心を働かせている姿は「科学する心」の育ちにつながっていくと考えた。

加呂登池ではいろいろな活動ができ、それぞれに自分の好きな活動を見つけて取り組めた。その中で、捕まえたときの喜びや生き物の躍動、追いかけてもなかなか手に入らないもどかしさを感じたり、「水の中でないとかわいそう」と思いやりの気持ちを働かせたり《「考えるするどさの」の高まりにつながる》経験など、心も体も十分に働かせることができた。

また、何か見つけると『見つけた物』が媒介になり近くにいる子ども同士、または子どもと大人とのかかわりを結ぶことができた。互いに喜びや残念な思いに共感したり、教えあったりなど自然と様々なかかわりがもてた。

《「人とかがわかるするどさ」「表現のするどさ」の高まりにつながる経験》

『探す』『見つける』『うれしい』『残念だ』『気持ちよい・悪い』などわかりやすい経験や感情を共有できるので、一体感が持ちやすい活動だった。

教師のするどさについて

それぞれの場面では、子どもと一緒に活動し共感的なかかわりをするように努めたが、活動の場が広がり少数の教師で対応するには、教師間の連携をスムーズにすることが大切であると感じた。

小学校と幼稚園の教師ではかかわりの観点が違う場面があった。教育課程の違いがあるので、指導者全員の共通理解を進めるには、時間が必要であると感じた。しかし、互いの教育内容を理解した上で、交流でのねらいを定めていくことは可能であると考えた。今後さらに教師間の理解を図るための研修に努めたい。そして、活動に伴う子どもの心の揺れ動きを敏感に受け止め、互いのするどさを高められるように活動していきたい。

みどころ

幼稚園児・小学生・中学生・保護者・ボランティア参加者、幼稚園・小学校・中学校の教師という様々な人々が一緒に活動することができ、それぞれの人々が、自分なりに楽しさや興味、目当てをもって楽しめる環境、そして、この活動の機会は、大変貴重です。ここに紹介されているのは一場面ですが、まさに環境に主体的にかかわり、感じたり気づいたり、一緒に活動するお互いのかかわりを楽しんだりしています。教師のするどさの課題に示された教師間の指導やかかわりの相違はこの場面では分かりませんが、こうした貴重な体験を通して、幼児の「科学する心」が生まれ、小・中学生や参加した大人が自然環境やそこにかかわる子どもたちの姿から多くを学ぶことができるという実感をもてたことは、相互の連携が深まることに結びつくと思われます。